

平成26年度 国有林野事業業務研究発表会 発表課題 一覧

< 森林技術部門 >

会場：農林水産省北別館8階 共用第9会議室

No.	開始時間	発表課題名	発表者所属	発表者氏名 (元所属)
1	10:00	森林総合監理士(フォレスター)活動報告	関東森林管理局 下越森林管理署	石田 健(中越署)
		准フォレスター研修受講後、地域の民有林関係者と連携して活動した各種取組及び、地域の森林づくりに貢献するフォレスター活動を報告する		
2	10:20	民国連携による市町村森林整備計画のブラッシュアップについて(指標林の設定)	中部森林管理局 飛騨森林管理署 岐阜県飛騨農林事務所	稲垣 正紀 中谷 和司
		市町村森林整備計画等の作成支援のため「指標林」を設定するにあたり、民国連携による准フォレスターの果たした役割や、設定活動の効果について報告		
3	10:40	航空レーザ計測による森林及び下層植生の現況把握等の調査結果について	関東森林管理局 計画課 アジア航測株式会社	高橋 秀夫 小川 吉平
		森林調査に航空レーザ計測を活用し、樹種、本数等の森林資源情報を広域的に解析するとともに、現地調査により有効性を検討した結果について報告する		
【休憩】 11:00～11:20				
4	11:20	東日本大震災の教訓を踏まえた防潮堤の設計・施工並びに住民への説明について	東北森林管理局 宮城北部森林管理署 海岸防災林復旧対策事務所	宮下 崇 水村 年一
		東日本大震災で被災した防潮堤の復旧に当たり新たに検討実施した設計及び調査・解析手法並びに住民説明の状況を報告し、今後の復旧対策の一助とする		
5	11:40	森林除染事業地における放射線モニタリングについて	関東森林管理局 森林放射性物質汚染対策センター	長尾 美穂
		福島第一原子力発電所の事故に伴う環境汚染に対する除染事業の実施において、重要な判断資料となる放射線量等のモニタリングの取組を報告する		
【休憩】 12:00～13:00				
6	13:00	「検証！コンテナ苗の夏季植栽」～道北の道有林・国有林の取組～	北海道森林管理局 上川北部森林管理署 北海道上川総合振興局	津田 元 小林輝郁 門 夏希
		北海道の主要な植栽樹種のコンテナ苗を春季から秋季にかけて植栽し、これら樹種の活着調査結果からこれまで適期とされていない夏季植栽の可能性を考察		
7	13:20	トータルコスト縮減に向けた伐採・造林の一体的取組	近畿中国森林管理局 兵庫森林管理署	藤木 俊行 北垣 寛武
		マンガ谷国有林における生産・造林事業の一括発注による、植栽から下刈までの作業の省力化やコスト縮減などトータルコストについて検証		
8	13:40	伐採と造林の一貫作業システムについて	中部森林管理局 北信森林管理署 信州大学農学部	森田 直宏 木内 重明 大塚 大
		皆伐事業地における低コスト作業システム(生産)とコンテナ苗植栽(造林)を組合せた一貫作業の実証試験によるコスト改善効果に関する考察		
9	14:00	低コスト林業への取組について 一伐採・搬出・植栽を一体化した事業発注を実施して	近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署	弘兼 光秀 西田 一紀
		「一貫作業システム」を取り入れるとともに、低質材のシステム販売等新たな販路拡大、林地残材を極力少くした低コスト造林事業を実施・検証した結果を報告		
【休憩】 14:20～14:40				
10	14:40	エリートツリーから多様な林業の可能性を考える	九州森林管理局 森林技術・支援センター	田中 和利 釜 稔
		再造林コスト低減を図るため、当センターにおいて行ったエリートツリーや精英樹の成長試験を紹介し、これらを活用した多様な林業の提案を行う		
11	15:00	H型架線集材システム ～急傾斜林地における効率的な集材システム～	四国森林管理局 嶺北森林管理署 株式会社とさらいほく	森下 寿広 石垣 久志
		高知県の嶺北地域を中心に実施されている急傾斜林地における安全で効率的な架線集材方法である「H型架線集材システム」について特徴と実行結果を発表		
12	15:20	高齢級人工林ヒノキのブランド化について	中部森林管理局 木曾森林管理署 木曾官材市売共同組合	片桐 義行 志賀 剛 鈴木 隆志
		優れた特徴を持つ高齢級人工林ヒノキをブランド化する取組を通じて得られた知見を報告し、今後の取組や天然木曾ヒノキの代替材としての育成方法等の課題について考察		
13	15:40	マルチコプターを活用した森林現況調査等について	九州森林管理局 熊本南部森林管理署	丸橋 勝寿 白濱 正明
		マルチコプターからの写真・映像を林分の概況調査や効率的・効果的な事業の計画や実施に活用した事例を紹介		

＜森林保全部門＞

会場：農林水産省北別館8階 林野庁A・B会議室

No.	開始時間	発表課題名	発表者所属	発表者氏名 (元所属)
1	10:00	ナラ枯れ防除の取組(おとり丸太法の試行)	関東森林管理局 塩那森林管理署	仁平 亮(会津署)
		カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が多く発生している中、平成23年から実施してきた、誘引捕殺「おとり丸太法」の実施状況を報告する		
2	10:20	目指すべきエゾシカ対策への取組 ～地域に根ざした体制づくり～	北海道森林管理局 上川南部森林管理署 占冠村林業振興室	妻藤 荘史 浦田 剛
		国有林野の多い占冠村におけるエゾシカ対策として、民国連携による安全で効率的な体制づくりの取組やモバイルカリングなど今後の展望について報告		
3	10:40	遠野地域におけるニホンジカ被害の現状及び地域と連携した被害防止対策の取組	東北森林管理局 岩手南部森林管理署遠野支署	茂木 大佑
		冬期のニホンジカ捕獲支援のための取組や足跡調査による行動形態の把握など、関係機関や地域住民と連携して取り組んだ被害防止対策について報告		
【休憩】 11:00～11:20				
4	11:20	低コストによる外来種(ギンネム)対策と海岸林再生への取組	九州森林管理局 西表森林生態系保全センター 九州森林管理局 沖縄森林管理署	渡邊 昭博 岩下 清美
		西表島海岸林における外来種ギンネムによる防風・防潮機能低下の現状を踏まえ、各種調査試験等を行い、フクギ等在来種による海岸林自然再生手法を提案		
5	11:40	大正時代の治山事業調査	四国森林管理局 愛媛森林管理署	福田 薫
		局内で保管されていた大正時代の写真に、永納山(愛媛県)の「はげ山」の姿を発見。その写真から、現在の緑豊かな永納山へ変貌させた先人の偉業を後世に伝える		

＜森林ふれあい部門＞

会場：農林水産省北別館8階 林野庁A・B会議室

No.	開始時間	発表課題名	発表者所属	発表者氏名 (元所属)
1	13:20	木の名前を覚えよう! 「樹木博士認定会」の取組について	北海道森林管理局 駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター	小林 薫 松田 清
		当センターがスタート当初から実施してきた樹木博士認定会について、10年目の節目としてこれまでの取組と実施方法を紹介		
2	13:40	地元の小学生を対象とした森林教室の取組について	東北森林管理局 三八上北森林管理署 東北森林管理局 三八上北森林管理署 東北森林管理局 企画調整課	鈴木 晃輔 児玉 俊一 一重 喬一郎(三八上北署)
		地元小学校6年生を対象に、森林、林業、木材産業全体の重要性を伝えるために、新たな森林教室のカリキュラムを企画し、行った活動の報告		
3	14:00	岐阜県恵那農林事務所と東濃森林管理署の連携	中部森林管理局 東濃森林管理署 岐阜県恵那農林事務所	大野 裕康 竹内 智絵
		地元の高校生を対象に、木材生産から建築までの一連の流れをテーマにした現地見学会の開催など、岐阜県と連携した取組事例についての報告		
【休憩】 14:20～14:40				
4	14:40	レクの森「猪八重の滝」における森林教育の取組	NPO法人ごんはる 九州森林管理局 宮崎南部森林管理署 九州森林管理局 宮崎南部森林管理署	谷口 由利子 長淵 直 遠山 祐吏
		老齢天然林など学術的価値を持ち、森林セラピー基地でもあるレクの森「猪八重の滝」でNPO法人ごんはるが実施する森林環境教育等の取組事例を紹介		
5	15:00	民国連携による地域一体となった鳥獣害対策活動について 一若桜町におけるニホンジカ対策の取組	若桜町産業観光課 近畿中国森林管理局 鳥取森林管理署	山本 伸一 國永 一彦
		町や森林管理署等で組織する「若桜町鳥獣害対策協議会」によるニホンジカ対策を契機として、市民団体と連携した資源の活用状況と今後の取組方向について報告		
6	15:20	剣山南側の地域活性化への取組と今後の課題	南つるぎ地域活性化協議会 四国森林管理局 香川森林管理事務所	平井 滋 柏木 喜代幸(徳島署)
		四国第2の高峰「剣山」、その南側山岳を対象に地域・地元団体・行政が連携し、協議会を立ち上げ、「南つるぎ」の環境保全と魅力発信の取組及び今後の課題等を発表		

＜特別発表＞

会場：農林水産省北別館8階 共用第9会議室

発表時間	発表課題名	発表者所属	発表者氏名
16:20	林業機械化センターの概要と試験研究「軟弱路盤に対する丸太埋設の効果」	森林技術総合研修所 林業機械化センター	機械化指導官 波崎 卓巨
		森林技術総合研修所 林業機械化センター	機械化指導官 富元 雅史
		森林総合研究所 林業工学研究領域 森林路網研究室	主任研究員 鈴木 秀典
今年度、林業機械化センターで実施している研修の概要と試験研究の取組について紹介する。 試験研究については、軟弱地での森林作業道において機械の走行性と安全性を確保するため、丸太を埋設し効果を検証した。			